



66時間の空白

柴生田 晴四

(経済倶楽部理事長)

▼台風7号が九州地方に接近した7月3日以降に西日本を中心に降り続いた大雨は2000人を超す死者を出すなど、未曾有の被害をもたらしました。気象庁は7月5日の午後2時に東京と大阪で大雨に関するものとしては異例の緊急記者会見を開き、「広い範囲で大雨が続いています。この状況は、8日頃にかけて続く見込みです。非常に激しい雨が断続的に数日間降り続き、記録的な大雨となるおそれ

があります」と、警告を発しました。そして、気象庁が警戒を呼び掛けた土砂崩れや河川の氾濫により、甚大な被害が発生したのです。▼気象庁が最大限の強い調子で警戒を呼びかけたのにも関わらず、政府が「非常災害対策本部」をたちあげたのは気象庁の記者会見から66時間も経ってからでした。6日には気象庁が「特別警報」を次々に発令して、早急な避難を呼びかけ、その後、各地で相次ぐ土砂崩れや河川の氾濫が報じられました。しかし、政府は死者・行方不明者の数が積み上がるまで腰を上げませんでした。

▼安倍政権下で「非常対策本部」の設置は、今回で4回目です。その中でも今回の災害の被害は「熊本地震に匹敵するものでした。に

も関わらず政府の対応が大きく遅れたのは、長期政権であるが故の緊張感の欠如、気のゆるみが影響しているのではないのでしょうか。

▼政権の「ゆるみ」を象徴する出来事が7月5日の午後8時から東京赤坂の議員会館の会議室で行われた「赤坂自民亭」と銘打たれた宴会です。もともとは、食べ物やお酒を持ち寄って月1回開かれる若手議員中心の懇親会ですが、この日はどういうわけか安倍首相が初めて出席、加えて小野寺防衛相、上川法相、吉野復興相などの閣僚、竹下総務会長、岸田政調会などの党幹部が顔をそろえ、大いに盛り上がったのだそうです。しかもこの会合の様子を5日の夜に、西村官房副長官や片山さつき議員が写真添付でツイッターに投稿。こ

れに対してSNS上に非難が殺到する騒ぎになりました。投稿は翌日削除されましたが、本来は被害情報を収集して非常災害対策本部の立ち上げに動くべき立場にあった西村氏の能天気ぶりが突出しています。

▼遅ればせながら8日の午前8時に設置された「非常災害対策本部」の冒頭で挨拶に立った安倍首相は、「救急救助、避難は時間との戦い。引き続き全力で救急救助と避難誘導に当たってもらいたい」と述べたとか。現地では水上バイクで友人の母親の救助に向かった人がそのまま暗闇の中で15時間も救助活動を行ったという話が報じられています。一強の上に胡坐をかき、国民への奉仕の心を失った政治家には、恥を知れと言いたいところです。